

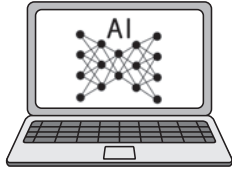


早川 浩徳 議員

問 生成AIの利活用をどう考えているのか。

答 政策部長

現時点では市の業務での活用は行っていませんが、正しく利用すれば、業務の効率化はもとより、行政の幅広い分野や業務で活用できる可能性があると考えています。



問 子どもたちの生成AIの利活用についての考え方について伺う。

ChatGPTなどの生成AIの活用と考え方について

答 教育指導部長

本年7月の文部科学省の「初等中等教育段階における生成AIの利用に関する暫定的なガイドライン」では、「学習指導要領では、『情報活用能力』を学習の基盤となる資質・能力と位置づけ、情報技術を学習や日常生活に活用できるようにすることの重要性を強調している。生成AIがどのような仕組みで動いているかという理解や、どのように学びに生かしていくかという視点、子どもたちが近い将来に使いこなすための力を意識的に育てていく姿勢は

問 ChatGPTをはじめとする生成AIの利活用をどう考えているのか

ええているのか

答

正しく利用すれば、行政の幅広い分野や業務での活用の可能性があると考えています

重要である」と示されました。それらを注視し、児童生徒の情報活用能力の育成に努めます。

問 教職員の生成AIの活用による業務の負担軽減などの可能性について

答 教育指導部長

校務では、働き方改革の一環としての活用が考えられますが、教員側にも一定の情報リテラシーが必要であり、個人情報保護などに細心の注意が必要となることから、利用方法や業務負担軽減の

可能性も含めて研究します。

問 行政現場での具体的な利活用をどう考えるのか。

答 政策部長

生成AIは、文章の要約や文章案の作成など、幅広い機能を持っています。使いこなすには、指示の出し方も重要で、回答が間違っていないかを確認することも必要です。まずは試験運用を行い、活用できる業務範囲や、ルールなどの検討が必要と考えています。

問 利用にあたってのガイドラインが必要と考えるがどうか。

答 政策部長

市の業務において生成AIを安全に活用するには、ガイドラインとあわせ、職員の情報リテラシーを高める必要があります。そのため試験運用と並行しながら、利用にあたってのガイドラインについても検討したいと考えます。